

## 愛知県福祉サービス第三評価事業 評価結果

### ①第三者評価機関名

特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント

### ②施設・事業所情報

名称：社会福祉法人碧南市社会福祉協議会棚尾保育園	種別：保育所
代表者氏名：杉澤 美藤江	定員（利用人数）：180（171）名
所在地：愛知県碧南市汐田町5丁目34番地	
TEL：（0566）41-0897	
ホームページ：tanaho@hekinan-shakyo.jp	
<b>【施設・事業所の概要】</b>	
開設年月日（邦暦）昭和26年8月1日 平成22年4月1日（社協へ移管）	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人碧南市社会福祉協議会	
職員数	常勤職員：22名 非常勤職員 11名
専門職員	（専門職の名称）名 保育アシスタント 1名
	保育士 33名
	調理員 4名
施設・設備の概要	（居室数）
	（設備等） 倉庫4、便所6、木製遊具アスレチック（滑り台含む）、砂場2、登り棒、ジャングルジム・雲梯、鉄棒
	保育室（乳児室・ほふく室含む）8、遊戯室1、調乳室1、職員室1、医務室1、調理室1

### ③理念・基本方針

（理念）  
 子どもの人権や主体性を尊重し、保護者から信頼され地域から愛される保育園をめざす。

（基本方針）

- ・園と家庭とが連携を密にし、子どもの日々情緒の安定を図り健全な心身の発達を促す。
- ・健康で安全な保育を心がけ、保育士がよい手本であることを自覚し、丈夫な体作りや基本的な生活習慣、態度が身につくようにする。
- ・一人ひとりの子どものあるがままの姿を受容する中で信頼関係を築き、子どもが意欲的に生活したり、主体的に遊ぶことができるようにする。
- ・一人ひとりの遊びの様子をよく見て、一緒に遊ぶ中で試したり工夫したりできる環境を整え遊びを楽しめる援助や働きかけをする。
- ・園内や周辺の季節に応じた自然環境に親しみ、自然物を遊びに取り入れたり小動物に触れたりして豊かな心の育成に努める中で、命の大切さを知らせていく。
- ・子育て事業などを通して保護者、地域との連携を大切に信頼される保育園を目指す。
- ・人間性豊かな保育士となるため、幅広い教養と専門知識を深めるように努める。

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

・保育所は開設から67年の歴史を有し、平成22年4月1日社協へ移管され、現在に至っている。

・生後4か月の乳児から受け入れをし、7時30分から19時までの長時間保育を実施している。子育て支援センターが隣接し、利用する親子に遊びや保育活動への誘いや園庭の開放なども行っている。

・保育所の周辺の工場跡地に建売住宅が立ち並び、棚尾地区の人口も増え、年々園数も増えほぼ定員一杯の入所となっている。地域の老人クラブの協力を得て、玉ねぎ、さつま芋、碧南市の特産物である人参掘りなど経験をする機会もある。また、公民館事業で、敬老会や公民館祭りへの参加や保育園行事等の理解や協力が得られ、地域の中で子ども達が育つ恵まれた地域環境となっている。

・家庭的な保育に心がけ、「集団で子どもを動かさない、待たせない保育」について、話し合いを重ね、環境や時間、連携等に配慮して保育をしている。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成 29年 6月 9日（契約日）～ 平成 30年 3月 20日（評価決定日）
受審回数 （前回の受審時期）	2回 （平成 23年度）

#### ⑥総評

##### ◇特に評価の高い点

（運営課題の明確化と具体的な取り組み）

・運営状況や保育の内容、組織体制や設備の整備、財務状況、職員体制や人材育成などについて、職員会議等で検討し、課題や問題点を明らかにして次年度に反映させるように努めている。

・職員の勤務シフトの工夫やパート職員の活用により、保育に関わる作業時間や事務時間、休憩時間の確保をしたり、保育士の資質向上に向けて二人体制の副園長による保育現状の指導などに取り組んでいる。また、保育の一環として実施しているサッカー教室や保育場面のフォト整理など社協保育園としての独自性がより活かせるように検討したり、施設の整備等について社会福祉協議会と連携を図りながら計画的に改善をしていくようにしている。

（地域の福祉向上や地域連携等の取組み）

・子どもの保育と地域の関わり方について、子どもの社会体験や地域の中での子育て支援の基本的考えについては事業計画、保育課程に位置付け、実践活動として実施している。また、施設長は青少年健全育成協議会や交通安全推進会議など地域の会合や公民館行事に出席をし、学校関係者や民生委員、町内会総代など地域の代表との情報交換をし、地域との関わりを図っている。

・公民館祭りに園児の作品を展示したり、歌や表現遊びを披露している。老人会とは玉ねぎやさつま芋などの収穫体験や焼き芋、食事会、体操や遊びなどのチャレンジデーなどを通して地域との交流を広げる取り組みをしている。また、園庭開放や併設する子育て支援センターの親子に遊びの誘いや園庭利用などを通して地域の方との交流をしている。

・小学校見学やプール体験、津波による避難訓練など地域の小学校との交流を図っている。

##### ◇改善を求められる点

（中・長期計画及び事業計画の数値目標や具体的成果等の設定）

・園舎内外の修繕や工事、休憩対応や朝延長パート職員の増員に関する人員体制などの中・長期のビジョンは策定しているが、収支の裏付けはされていない。また単年度事業計画も中・長期計画の中に位置付けている。

・中・長期計画や事業計画は、保育の更なる充実や課題解決、地域ニーズに基づいた新たな福祉サービスの実施などを含めた目標を明確にし、それを実現するために、現状の計画に、職員の人材育成、保健や安全、地域の子育て支援や地域連携などの具体的なビジョンなどを加味した中・長期の期計画を策定していくことが望まれる。

(保育運営についての共通理解や共有化)

- ・保育内容や勤務形態の多様化している中、保育理念に基づいた保育を展開する上で職員の共通理解や共有を図りながら展開していくことが重要と思われるが、職員間で運営や保育についての認識に差異を感じる。
- ・共通理解や共有を図る機会の仕組みや方法、手順、時間などを再度工夫をし、より確実に共通理解や共有を図り実現に向けていくことを期待したい。

#### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を受けるに当たり職員一同とても緊張して評価基準の読み合わせをし、一通り読んだ中で何を聞かれているのか言葉の難しさに戸惑いを感じたようで「分からない、中長期事業って何？、経営？、法人とは？」などなど混乱している様子が伺われた。私自身も読みながらこの言葉は勘違いをしてしまうのではないかとと思われる文章又は言葉については職員に説明をして共通理解をする中で個人、グループ討議をした。話し合いを重ねるうちに質問の文章に慣れ、話し合いもスムーズに進行した。マニュアルは一応整ってはいるし職員に周知もしているがこの評価を受ける事で新たに必要な物に気付かされた。

今年度は、65項目の評価基準で自己評価を兼ねて自分なりの評価をしたが例年行っている自己評価より詳しく自分の保育の振り返りを行う事が出来たように思う。年度当初の自分の目標と照らし合わせ足りなかったところ、反省しなければいけなかったところを真摯に受け止めこれからの保育に役立たせるよう職員で話し合う機会を持たせてもらった。保護者アンケートも色々な意見があり保護者が保育園をどのように思い、感じているかを知ることができた。この中でも満足に思っていない保護者もいるのでなるべく保護者が納得、満足いくよう努力していかなくてはならないとこを反省させられた。こうしてもらえると分かり易い、さらによくなるという意見もあったので参考にしていきたい。保護者の方が保育園に対して協力的で理解を示していただけていることも良く分かったのでこれに満足せずさらに保護者と手を取り合っって子どもの為により良い保育が行えるよう努力していきたいと思っている。

今後の課題として保育士の保育力を向上させていく為にどのような研修が必要なのか、リーダーとして何をすることで保育士の力となるのかを私自身取り組んでいく事が課題である。また、社協園全体で考え園長会の課題にしていく事も必要であると考え。社協園としての運営歴が短く、臨時職員として就労していた者が多く正規職員としての自覚も薄いので人として、社会人として保育士として的人格形成にも力が発揮できたらいいなと思っている。手立てとしてあるわけではないので今後の課題にし、自分自身も努力していかなくてはならないと思う。

今回の第三者評価を受けて園長として、リーダーとして自分の置かれている立場の重みを感じる事ができ、リーダー力を発揮していなかったことを反省した。私たちの仕事は法律に基づいて行われていることを職員にも折に触れ伝えていきながら児童憲章・最低基準・保育所保育指針等保育に関する法律が今以上身近に感じるようにしていきたい。

#### ⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

### 第三評価結果

※すべての評価細目（65項目）について、判断基準（a・b・cの三段階）に基づいた評価結果を表示する。

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する

#### 評価対象 I 福祉サービスの基本方針と組織

##### I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果	
I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。			
I-1-(1)-①	理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	保1	①・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 棚尾保育園の保育理念と基本方針、目標を確立し、明文化している。</li> <li>・ 理念や基本方針、保育目標は、福祉サービスの内容や特性などを踏まえて保育所の使命や目指す方向性が明記され、職員の行動規範となるような具体的な内容が示されている。</li> <li>・ 理念や基本方針は、保育園管理案やホームページ、保育園のパンフレット、保育園だよりなどに記載されている。また、見やすいようにパネルにし、掲示板や職員室、保育室、遊戯室などに掲示し、視覚的な周知を図っている。</li> <li>・ 職員には年度当初、保育園管理案を配布し、会議や研修会、保育活動展開などの折に周知を図っている。短時間雇用パート職員には文書を配布し個別に読み合わせをして周知をしている。</li> <li>・ 保護者には入園式や父母の会総会で資料に基づいて説明をしている。パンフレットは、市役所に設置し、広域的な情報提供を図っている。</li> </ul>			

##### I-2 経営状況の把握

		第三者評価結果	
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。			
I-2-(1)-①	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	保2	a・②・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉協議会からの情報を得て、市全体の動向を把握している。また、青少年健全育成大会や交通安全推進協議会などの会議や公民館行事に参加し、情報交換や連携を図ることで地域の特性や変化を把握するように努めているが、地域の住宅状況、家族構成や人口動態、保育ニーズなどを把握してのデータ化に努めているが分析までには至っていない。</li> <li>・ 保育所が位置する地域での福祉に対する需要動向や子どもの数、保護者や子ども像の変化、保育のニーズなどは保育所の運営を長期的視野に立って進めていくために必要な情報となる。把握した情報の分析やデータ化をより明確に反映させ、運営の将来性や継続性を見通しながら、より良質で安心・安全な保育提供に努めていくことを期待したい。</li> </ul>			
I-2-(1)-②	経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	保3	①・b・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運営状況や保育の内容、組織体制や設備の整備、財務状況、職員体制や人材育成などについて、職員会議等で検討し、課題や問題点を明らかにして次年度に反映させるように努めている。</li> <li>・ 職員の勤務シフトの工夫やパート職員の活用により、保育に関わる作業時間や事務時間、休憩時間の確保をしたり、保育士の資質向上に向けて二人体制の副園長による保育現状の指導などに取り組んでいる。また、保育の一環として実施しているサッカー教室や保育場面のフォト整理など社協保育園としての独自性がより活かせるように検討したり、施設の整備等について社会福祉協議会と連携を図りながら計画的に改善をしていくようにしている。</li> </ul>			

##### I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果	
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。			
I-3-(1)-①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	保4	a・②・c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園舎内外の修繕や工事、休憩対応や朝延長パート職員の増員に関する人員体制などの中・長期のビジョンは策定しているが、収支の裏付けはされていない。</li> <li>・ 中・長期計画は、保育の更なる充実や課題解決、地域ニーズに基づいた新たな福祉サービスの実施などを含めた目標を明確にし、それを実現するために、現状の計画に、職員の人材育成、保健や安全、地域の子育て支援や地域連携などの具体的なビジョンなどを加味した中・長期の計画を策定していくことが望まれる。</li> </ul>			

I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	保5	a ・ ㉔ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単年度の事業計画を中・長期計画の中に策定している。事業計画は、具体的な内容ではなく、施設の修繕や修理を目的として作成している。</li> <li>・事業計画は、保育園の基本方針や目標、子育て支援や地域への取り組み、保護者支援、小学校との連携、研修、健康衛生や安全事故防止、食育や行事などの具体的な項目に基づいて作成をし、事業計画を実現可能とするために収支計画を加味し、把握できる限りの数値化を図り計画に活かしていくことを期待したい。</li> </ul>		
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	保6	a ・ ㉔ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画の策定においては、職員の参画を得て会議等で意見を反映させて策定をしている。</li> <li>・事業計画の実施状況を、事業毎に進捗状況を把握し、半期毎に評価や見直しをし、次年度の計画に反映させるようにしていくことを期待したい。</li> </ul>		
I-3-(2)-② 事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	保7	a ・ ㉔ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者には、行事計画として文書を配布して周知を図っている。また、老人交流など地域との関わり事業や保育園の修繕などについては随時文書で連絡をしている。</li> <li>・策定している単年度の事業計画を、分かりやすい形式で文書化して配布をし、周知を図っていくことを期待したい。</li> </ul>		

#### I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
I-4-(1)-① 福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	保8	a ・ ㉔ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の資質向上や保育サービスについて園内研修の中で、保育士自己評価チェック表を用いて自己評価をしているが、保育園として評価点をまとめデータ化し、改善点や課題について職員間で検討し取り組むまでは至っていない。</li> <li>・第三者評価の受審は、5年に1度受審し、今回で2回目の受審である。</li> <li>・保育園全体の結果を基にして組織的、継続的に管理運営や保育の質の向上に取り組み、改善を図っていくことを期待したい。</li> </ul>		
I-4-(1)-② 評価結果にもとづき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	保9	a ・ ㉔ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改善に向けて検討する機会を設け職員間で共有化を図っていくようにしている。また、パート職員については、個別に意見を聞き反映するようにしている。</li> <li>・自己評価の結果を分析し、職員の連携体制や保育の基本に返るなどの課題を示し、改善計画や改善策を運営に反映していく努力をしている。</li> </ul>		

#### 評価対象Ⅱ 組織の運営管理

##### Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
Ⅱ-1-(1)-① 管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	保10	a ・ ㉔ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質の高い保育の実施や効率的な運営を目指し、施設長自らの役割と責任についての文書化し、職員会議等の機会に口頭で表明をしている。また、保育園管理計画の運営機構に基づいて会議で職務等を体系的に表明し、職員に周知を図るようにしている。</li> <li>・表明した文書を職員室などに掲示をして、自己の振り返りや確認の機会としていくよう期待したい。</li> <li>・平常時のみならず、災害や事故等の有事における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等について明確化していくことを願いたい。</li> </ul>		

II-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	保11	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組については、施設長自ら最新情報を入手し、その内容を職員に提供している。基本的な関連法に関する資料を収集してリスト化し、閲覧できるように職員室に常備しているが、職員間で理解するための取り組みは十分にされていない。 ・ 法令を理解するために年間計画を立て、園内研修を実施したり、必要に応じて情報を収集し、資料を配布して理解を深めるような取り組みに期待したい。		
II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
II-1-(2)-① 福祉サービスの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	保12	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 基本方針に照らし合わせた保育サービスの質に対する課題の把握や改善に向けた取り組みを施設長自ら積極的に取り組んでいる。また、会議や保育を通して職員と定期的、継続的に評価や分析を行っている。 ・ 「心身ともにたくましくよく遊ぶ子ども」を園の目標として設定し、「命を大切に、自ら安全に行動できる子ども、身体を動かす楽しさを知り、頑張れる強い心を持つ子ども、友達とよく遊び協力することができる子ども、やさしい気持ちを持つ子ども、自分の思いや考えをはっきり言える子ども、創意工夫のできる子ども、健康な生活を送るための食生活に関心を持てる子ども」を目指し、継続的な保育実践を通して、施設長自ら保育士の資質や保育力を高めるためにモデリングを示しながら指導力を発揮している。また、幼児には「子どもが発達、成長できる環境や遊びを考える」、乳児には「一人ひとりの発達を考え情緒が安定できる関わりを考える」を本園の研究テーマとして掲げ、保育の内容を高めるようにしている。		
II-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	保13	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 経営や業務の効率化と改善に向けて、人事、労務、財務等の情報を共有し、改善に向け努力を重ねている。また、基本方針や保育の実現に向けた人員配置、就業時間内での保育事務処理や教材準備等働きやすい環境整備に職員の意見も取り入れながら取り組んでいる。 ・ 人事配置や労働環境の整備、事務時間の確保等、職場の人間関係の円滑化を重視し、経営の改善や業務の実効性を高める具体的な取り組みをしている。		

## II-2 福祉人材の確保・育成

第三者評価結果		
II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
II-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	保14	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 社会福祉法人の方針に基づき必要な人材や人員体制が整い、保育園の具体的なプランに基づいた人事管理が実施されている。また、子どもの遊びや保育の専門性を高めるための研修等、保育園が目指す保育サービスを充実させるための具体的なプランを有し、必要に応じて人材を確保するように努めている。 ・ 保育ニーズや年齢別園児数に対して適正な職員配置がされ、理念や基本方針、事業計画を実現させ、質の高い保育の実施可能な体制となっている。		
II-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	保15	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 保育所における理念や基本方針に基づいた「期待する保育士像」を明確にさせ、職員の育成や活用、処遇、人事考課制度に基づく評価などが総合的に実施されている。 ・ 社会福祉法人の考課基準に基づいた人事考課を導入し、職員に明示し実施している。個人面談などを通して、成果や貢献度を評価している。結果のフィードバックを行い、任用や給与等処遇に反映させ、公正な人事管理システムを実施している。		

II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
II-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	保16	a ・ ㉞ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉協議会管理の下に、有給休暇、育児・介護休暇、時間外、疾病状況等職員の就業状況を把握し、データ化をしており、職員の希望休暇を確保している。また、行政の福利厚生や健康診断、人間ドック等の健康維持の推進事業の他に、臨時職員においても、健康診断の機会が確保されて利用をしている。</li> <li>・職員の就業状況や意向、意見等について、副園長を窓口にして施設長と連携し、個別に職員との面談や相談に応じるようにしている。</li> <li>・働きやすく良好な職場環境を目指し、ストレスチェックの実施、サポートを必要とする職員に対して保育カウンセリングや産業医によるメンタルヘルズ相談を受けられる仕組みがあることを周知し、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境作りに心がけている。</li> </ul>		
II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
II-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	保17	a ・ ㉞ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員一人ひとりに、期待する職員像や課題について話し合う機会を持ち、人材育成に努めている。また、個別面談を通して進捗状況を把握したり助言をして、職員一人ひとりの意識やモチベーションを高め、知識や経験等に応じて具体的な目標を設定して保育が行えるような取り組みをしている。</li> </ul>		
II-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	保18	a ・ ㉞ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・碧南市や社会福祉法人の研修計画を基に、職員の研修目的に合った研修に参加できるようにしている。技術水準や専門性の向上に向けた自主的な研修についても情報を収集し、積極的な参加を推進している。また、保育士の資質や保育力を高めるために、子どもの理解を深める園内研究を実施している。</li> </ul>		
II-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	保19	a ・ ㉞ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内においては、保育の目的に応じた公開保育や課題研究等の研修を実施している。</li> <li>・保育士の経験年数や保育の資質向上に関わる研修への参加や調理員等専門的分野における知識、技術、技能等の水準、資質、力量の向上に向けた研修や個別指導も実施している。</li> <li>・研修報告書を作成し、職員会議等で報告をしている。また、当該職員も含め研修報告を受けた職員が、研修成果を保育内容や業務に反映させている。</li> <li>・研修成果の評価や分析、職員一人ひとりの知識、技術水準などの状況が把握できる報告書作成の検討も期待したい。</li> </ul>		
II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
II-2-(4)-① 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	保20	㉠ ・ b ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受け入れにおいて、実習依頼校と覚え書を取り交し、実習における責任体制を明確にした上で、実習マニュアルに沿って事前のオリエンテーションを行い、受け入れをしている。また職員会議等で職員に説明をし、適切な体制で行われている。</li> <li>・実習生の意向や自己課題を聞き、実習生自己評価票を用い課題達成に向けた指導を行い実習生の育成を行っている。施設長や副園長を実習指導者として実習指導担当者も含め、部分実習、一日実習などの実習実務や保育内容等の指導や助言、相談などを行っている。実習希望者は、実習体制が整えば全て受け入れていく。</li> </ul>		

### II-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
II-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	保21	a ・ ㉞ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページや事業計画、パンフレット、園だより、掲示板等で保育所の理念や基本方針、保育内容や事業計画が公開されている。また、保育所で行っている活動状況を印刷物等で配布をしたり、アンケートを実施し結果を紙面で報告している。</li> <li>・苦情・相談の体制についても、園内や掲示板に掲示し、保護者や地域に公表している。また、保護者から受けた相談など、必要に応じて社会福祉協議会に報告をするようにしている。</li> <li>・第三者評価受審について、保護者に公表をしている。受審結果についての公表を予定している。</li> <li>・保育所の基本方針、保育内容や事業計画等について、地域での会議や行事等で明示したり説明をし、保育所の存在意義や役割を明確にしていくように努めている。</li> </ul>		

II-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	保22	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 社会福祉協議会や県の監査委員による監査を受けており改善課題は速やかに改善をしている。財務状況以外に保育所の運営機構や事業内容等についての監査も実施されている。		

#### II-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
II-4-(1)-① 利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	保23	㉠ ・ b ・ c
<コメント> ・ 子どもの保育と地域の関わり方について、子どもの社会体験や地域の中での子育て支援の基本的考えについては事業計画、保育課程に位置付け、実践活動として実施している。また、施設長は青少年健全育成協議会や交通安全推進会議など地域の会合や公民館行事に出席をし、学校関係者や民生委員、町内会総代など地域の代表との情報交換をし、地域との関わりを図っている。 ・ 公民館祭りに園児の作品を展示したり、歌や表現遊びを披露している。老人会とは玉ねぎやさつま芋などの収穫体験や焼き芋、食事会、体操や遊びなどのチャレンジデーなどを通して地域との交流を広げる取り組みをしている。また、園庭開放や併設する子育て支援センターの親子に遊びの誘いや園庭利用などを通して地域の方との交流をしている。 ・ 小学校見学やプール体験、津波による避難訓練など地域の小学校との交流を図っている。		
II-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	保24	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ マニュアルやボランティア記録を整備し、受入体制を整え対応している。 ・ ボランティア受入れの意義を明示し、トラブルや事故の未然防止や有意義な機会とするために、マニュアルに基づいてボランティアとの打ち合わせを実施している。 ・ 絵本の読み聞かせ、中・高校生の職場体験や保育体験などのボランティアを受け入れ保育活動に位置付けている。		
II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
II-4-(2)-① 福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	保25	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 担当課を初め医療機関、児童相談センター、療育センター、支援センター、発達支援施設、小学校、主任児童委員並びに嘱託医等保育園を中心としたネットワーク体制ができており、地域との関連図を作成し職員室に設置し、会議等で説明して共有を図っている。 ・ 保護者にはファミリーサポートや療育センター等必要に応じて関係諸機関や施設の情報を提供している。		
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
II-4-(3)-① 福祉施設・事業所が有する機能を地域に還元している。	保26	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 保育所の園庭を活用して、地域の未就園児の親子を対象として園庭開放をして遊びの場を提供している。併設する子育て支援センターを利用する親子を対象に、遊びや保育活動への誘いや園庭の開放などを行っている。また、相談など子育てに関する保護者支援も実施している。 ・ 地域の高齢者や子育て家庭へ、運動会や発表会など行事への参加を呼び掛け、子どもたちとの交流の機会を提供している。		
II-4-(3)-② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	保27	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 地域で定期的に開催される会議などに参加すると共に地域の行事に参加し、協力関係を保つ中で地域の具体的なニーズの把握に努めている。 ・ 子育てに関する相談など保護者支援や、入所している親子を対象とした食物アレルギーを有する子どもへの家庭支援などの事業を実施している。		



### 評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

#### Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果		
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。				
Ⅲ-1-(1)-① 利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	保28	a	ⓑ	c
<コメント> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理念や基本方針に、子どもを尊重した保育の実施方法が明示され、保育室や職員室に掲示し、職員会議等で共通理解を図るようにしている。「保育士としてのマナーと心得」を読み合わせをして、子どもの人権に配慮し、子ども一人ひとりの人格を尊重して保育を行うようにしている。また、外国籍の子どもも含めた、子どもの人権や文化の違い、尊重する心、性差への固定概念などについて倫理綱領を基にして話し合いを行い、共通理解を持つように努めている。</li> <li>・保護者には、保育参観や行事などの折に具体的な場面や実態に合わせ話をする他に、保護者会などで具体的な共通認識を持つように配慮していくことも望まれる。</li> </ul>				
Ⅲ-1-(1)-② 利用者のプライバシー保護等の権利擁護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	保29	a	ⓑ	c
<コメント> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「他人の干渉を許さない、各個人の私生活上の自由」に関する利用者のプライバシー保護については、市のマニュアルを基に、会議の中で話し合いを行い、説明をしたり読み合わせをして、保育姿勢や意識的な事項等を保育場面に照らし合わせ周知を図るようにしているが、マニュアルや規程の十分さを欠く。</li> <li>・排泄や着替えなどの生活場面や遊び場面におけるプライバシー保護について職員と検討を重ね、子どものプライバシーや権利擁護に配慮した保育が行われるように、既存のマニュアルの見直しを願いたい。</li> </ul>				
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。				
Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	保30	a	ⓑ	c
<コメント> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用希望者に対してサービスの選択をするための資料として、ホームページや、入園時の書面、園だより等でサービス提供に関わる情報提供を行っている。また、保育園のパンフレットを市役所などに置き、情報を広域に提供している。</li> <li>・保育園の見学希望者は、随時受け入れ、電話等の対応もしている。</li> </ul>				
Ⅲ-1-(2)-② 福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。	保31	a	ⓑ	c
<コメント> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政により、入園決定に関する書面や保育サービス、料金等明示した資料を保護者に送付または、配布をし、関連書面のデータ化を行っている。</li> <li>・保育の開始や内容の変更時に、保護者等に分かりやすく説明をしたうえで同意を得ている。スポーツ振興センターの加入や個人情報について説明し、同意書を得ている。</li> </ul>				
Ⅲ-1-(2)-③ 福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等にあたり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	保32	a	ⓑ	c
<コメント> <ul style="list-style-type: none"> <li>・退園や転園、保育サービスの変更等に関する文書の取り交わしは行政で行われている。また、転園児については個人情報等を考慮し必要に応じて保育に関する情報の提供をし、サービスの継続性に配慮している。</li> <li>・保育終了後も相談等に応じることを口頭で説明をしている。</li> <li>・保育所利用の終了後も、子どもや保護者等が相談を希望した場合のために、担当者や窓口を設置し、口頭だけではなく、書面でも伝える環境を用意し保育の継続性を確保していくことを期待したい。</li> </ul>				

Ⅲ-1-(3) 利用者満足の上向上に努めている。		
Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の上向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	保33	a ・ ㉔ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動会や生活発表会などの行事参加の機会を定期的に設け、直接意向や要望を聴くようにしているが、アンケートの実施はしていない。また、クラス懇談会や個別懇談会を実施したり、意見箱の常設、登降園時を利用した保護者とのコミュニケーション、希望者には家庭訪問の実施や保護者会への出席などを通して意向を把握するようにしている。</li> <li>・ 子育てに不安を感じている保護者には、積極的に声をかけ話を聞いたり相談にも応じている。</li> <li>・ 得られた意向や要望等は、定期的な会議で分析や検討をし、結果や改善等を文書や口頭で保護者に伝えるように努力をしている。</li> <li>・ 子どもからは、保育の場面で意見を聞いたり反応を観たりして、子どもの思いや意見が反映できるように計画を見直し、実践に繋げるようにしている。</li> <li>・ 保育運営や保育についてアンケートを実施し、不特定多数の意見を反映させ保育の上向上に繋げていく仕組みを整備していくことを期待したい。また、アンケート実施については、実施の目的を明確に示し、実施の内容や方法、時期などを見直し、多くの保護者がアンケート調査に容易に参加できるような工夫を考慮していくことを望みたい。</li> </ul>		
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	保34	㉔ ・ b ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 苦情解決の仕組みが確立され、入園説明会時に保護者に書面で説明をしたり、保育園だよりも記載し周知を図っている。また、分かりやすい文書で掲示もしている。苦情受付書に記録をし、対応策等を保護者等にフィードバックしている。</li> </ul>		
Ⅲ-1-(4)-② 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	保35	a ・ ㉔ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談窓口を設置し、日常的に接する担任以外に、複数の相談方法や相談相手があり、相談や意見を述べることを園だよりも明記し、口頭でも保護者に周知している。</li> <li>・ 登降園時には必ず門の前に立ち挨拶を交わし、園児の受け入れをしながらコミュニケーションを図っている。意見箱も設置し、自由に投稿できるようにしている。また、相談者のプライバシーを配慮し、個室で相談を受けるようにして環境を整えている。相談記録も取っている。</li> <li>・ 園だよりのスペースを活用し、気軽に相談や意見を述べることを明記し、自由に相談相手を選び、意見を述べやすい環境を整えていく工夫を期待したい。</li> </ul>		
Ⅲ-1-(4)-③ 利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	保36	a ・ ㉔ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 苦情に限定されない保護者からの意見や提案への対応マニュアル等は整備されていないが、書面に記録している。また、日常的なコミュニケーションによる平易な事項等について、口頭での報告はあるが、記録はしていない。寄せられた意見や提案は適宜、職員間で話し合い、迅速に対応するように努めている。保護者には経過や結果をフィードバックしていくようにしている。</li> <li>・ 保護者からの相談等については、対応の差異などが生じないように対応マニュアルを整備したり、平易な事項なども記録して事項を共有し、迅速な対応をしていくことを期待したい。</li> </ul>		
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	保37	㉔ ・ b ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事故発生時の対応や不審者対応等について、社芸福祉協議会の安全に関するマニュアルを基に、芸議等で職員に周知徹底を図っている。また、保護者にも周知し理解を広げるようにしている。</li> <li>・ 子どもの安全確保に関する担当者や担当部署を設置し、定期的な会議で安全確保に関する検討を行い実施する体制を整えている。</li> <li>・ 不審者対応については会議等で周知を図り、不審者侵入の想定や地域情報を基にしたシミュレーションを行い園児の安全確保を心がけている。</li> <li>・ 事故や怪我の発生時だけでなく、子どもを取り巻く環境の安全に関する事例や種々の点検を通して、会議等で発生要因を分析し防止策を検討し、安全への配慮や事故防止に努めている。</li> <li>・ 施設遊具等の安全に関する各種のチェックリストがあり、子どもを取り巻く環境の事故防止について会議で共通理解をし、実施している。安全チェックリストに基づき、職員と共に危険個所の早期発見や修復に努め、危険回避をしている。園児には、視聴覚教材や散歩、各訓練や指導等を通して安全教育を定期的実施している。</li> <li>・ ヒヤリハット事例について検討をし、怪我の状況や危険個所などの分析をしてデータを取り、安全の確保や危険予知などの共通理解を深めるようにしている。また、遊具や備品の安全性の確保に向け、定期的に専門機関に点検を依頼し、そのリスクに対しては、早急に対応し安全確保に心がけている。</li> </ul>		

Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	保38	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 感染症に関してのマニュアルを整備し、職員に配布し周知を図っている。保護者には、発病時における状況や対策、感染予防に関する対策などの文書を配布している。発生時には、感染状況についての情報を掲示したり、登降園時に口頭で保護者に周知している。		
Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的にやっている。	保39	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 社会福祉協議会のマニュアルを基に、災害時に対応できるマニュアルを整備し、災害発生時の対応や体制が明確に示されている。それに基づいた訓練も毎月実施され、見直しも行われている。耐震対策や防災対策が施されている。 ・ 保護者に災害時の対応について話し合う機会を設けたり、書面の配布により周知を図っている。また、保護者の協力を得て引き取りの避難訓練の実施や園より配信メールのテストを行い、災害時のシミュレーションを行っている。津波による避難訓練で地域の小学校へ避難をしている。 ・ 非常時に備え社会福祉協議会管理の元に、水や食料、毛布などの備蓄保管や備蓄の種類、数量、保管場所などのリストなどを明確にしている。		

### Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
Ⅲ-2-(1)-① 提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	保40	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 「標準的な保育の実施方法」が文書化され、それに基づいた個々のサービスが実施されている。子どもの年齢や発達と保育内容、指導計画との関連性や妥当性について職員の共通理解を図り、共通の対応で実践されるように心がけている。 ・ 職員会議等によって職員に周知され、保育計画との突き合わせや実施状況の確認は、定期的に保育等の検討会で行われている。		
Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	保41	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 保育の記録や保育計画、指導計画等は、年度当初、年度末等定期的に検証し見直しがされている。また、他の標準的な実施方法は定期的、保育内容ごとに見直しがされている。それぞれの実施方法の見直しは検討会において職員の意見や提案等が反映されている。 ・ 保護者の意向を把握し、意見や提案を反映していくように努力をしている。 ・ 計画と実践状況との見直しはされているが、保育士間での実施の手順や方法の妥当性などについての検証等も、保育の質の向上という観点から考慮していくことを期待したい。		
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく個別的な福祉サービス実施計画を適切に策定している。	保42	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 子どもや保護者の身体状況や生活状況を把握して個別に記録をし、定期的に見直しをし、指導計画に反映させ保育実践に繋げるようにしている。 ・ 保育指針を基に、子どもとその背景にある家庭や地域の実態把握を考慮し、子どもの発達状況を見通し、生活や遊びの連続性や環境、季節の変化などに配慮して保育計画や指導計画を職員参画の下で策定している。		

Ⅲ-2-(2)-② 定期的に福祉サービス実施計画の評価・見直しを行っている。	保43	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 保育計画は、全職員が参画し年度末に見直し次年度に反映させている。保護者には入園式で説明し、同意を得るようにしている。 ・ 各指導計画においては、定期的又は毎月・週・日ごとに評価・見直しを行い、次回へ反映させている。また、実際の保育に際しては、子どもの状態や状況に応じて、柔軟的に指導計画の変更を行い、見直しをするようにしている。		
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
Ⅲ-2-(3)-② 利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化させている。	保44	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 子ども一人ひとりの発達状況、保育目標、生活状況、安全衛生、食育、危機管理等についての各記録が適切に記載されており、全ての職員に情報の共有化を図り周知している。 ・ 各保育課程の記録内容や書き方に差異が生じないように手引き書を参考にして記載し、園長や副園長が点検、指導を行い、明確な記載が保てるように努めている。 ・ 子ども一人ひとりの発達状況、保育目標、保育の実際について、定期的に職員会議や年齢ごとに検討をし、情報を職員間で共有を図っている。		
Ⅲ-2-(3)-② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	保45	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 子どもに関する記録の管理について、個人情報保護規定や情報開示規定、文書管理規定に基づいて適切な管理が行われている。また、職員に対し教育や研修を行い、守秘義務の遵守についても周知徹底を図っている。 ・ 記録の管理方法の一つとしてUSBを使用しているが、管理体制の安全な工夫を願いたい。		

#### A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 保育課程の編成		
A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標にも基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	保46	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針に示されている趣旨を踏まえ、地域の実態等を考慮し棚尾保育園の保育課程が編成されている。子どもの遊びや生活を通して、「心身ともにたくましくよく遊ぶ子ども」を目標として、心と体のバランスのとれた保育内容を編成している。また、「幼児には子どもが発達、成長できる環境や遊びを考える。乳児には一人ひとりの発達を考え情緒が安定できる関わりを考える」を保育園の研究テーマに掲げ、保育計画に基づいて保育の展開をしている。 ・ 入所する全ての子どもを対象とし、発達過程を踏まえ、子どもの心身の発達の実態に即し、保育時間などを考慮した保育課程を職員参画の下で編成している。また、定期的に評価し、評価に基づき改善を図っている。		
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
A-1-(1)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	保47	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> ・ 室内の採光、換気、温度、空気の清浄などに配慮し清潔で明るく過ごせるように心がけている。また、トイレや遊具、用具なども安心して使えるように修繕や修理などをし環境を整え、安全への工夫がされている。 ・ 保育室環境はコーナーが設定され、大型玩具や用具、絵本や教材が年齢や人数に応じて整い、遊びの広がりやくつろぎが確保され、家庭的な親しみが醸し出されている。 ・ 生き物を飼育したり、草花や身近な野菜などを植えたり、季節感が漂う子どもの作品を展示し、保育環境の工夫がされている。また、食事時には整理整頓を適切に行い、食事の空間を確保している。 ・ 屋外の遊具や砂場などは、定期的に点検をしたり修繕をしたりして安全や清潔を確保し、安全に遊べるような環境を整えている。 ・ 子どもの心情や状態に応じて、落ち着いてくつろげることのできる場が確保され、保育士が子どもの身近にいて穏やかに応じている。 ・ 保育室から屋外を一望でき、広い園庭の活動状況も把握でき安全性も確保されている。		

A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	保48	a ・ ㉞ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども一人ひとりの違いを十分に把握し、職員間で話し合い、理解を深めるようにしている。また、それぞれの子どもの受容するための援助活動を指導計画に位置付け、実際の保育場面の対応や言葉かけも子どもをよく受容するようにし、笑顔で対応するように努めている。</li> </ul>		
A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	保49	a ・ ㉞ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども一人ひとりの発達を把握し、食事や着脱、清潔、睡眠、排泄などの基本的な生活習慣、健康増進のための習慣や態度を身につけられるように、子どもの状況を配慮し、強制や制限をせず、一人ひとりの子どものリズムや気持ちに沿った関わりをしている。</li> <li>・手洗いや歯磨き、トイレなどの手順を、子どもに分かりやすいような図式を取り入れた方法で掲示し、視覚から身につけられるように工夫をしたり、保育士がモデリングを示すようにしている。</li> </ul>		
A-1-(2)-④ こどもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	保50	a ・ ㉞ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが主体的に活動できるように、子どもの発達や季節に応じた玩具や遊具、素材や用具を用意し、自由に取り出して遊んだり、好きな遊びができるコーナーや自由に遊べる時間が確保され、子どもの主体性が発揮できるような働きかけをしている。また、子ども同士で協同して遊びを造ったり進めて行く機会が提供されている。当番活動なども年齢に応じて子どもが役割を果たせるような取り組みが行われている。</li> <li>・自然発生的に異年齢で遊んだり、遊びや生活を通して意図的に異年齢で交流できるような環境や保育の内容を設定し、異年齢の関わりを大切にしている。</li> <li>・戸外や室内で遊ぶ空間も確保され、子ども自ら進んで身体を動かして遊んだり、様々な遊具や用具を使った遊びを楽しむ環境が整えられている。</li> <li>・園庭には、樹齢を重ねた楠や松など四季を感じる樹木や花壇があり、保育園に居ながらにして四季の変化を感じ取れる環境にある。かぶと虫やザリガニ、メダカなどの飼育や、草花や野菜の栽培などを通して生物に興味を持ち可愛がる心を育むようにしている。また、食育計画を基に、夏野菜などを収穫し、皮を剥くなどの体験をして、給食に取り入れた保育に取り組んでいる。</li> <li>・公民館祭りに園児の作品を展示したり、歌や表現遊びを披露している。老人会とは玉ねぎやさつま芋などの収穫体験や焼き芋、食事会、体操や遊びなどのチャレンジデーなどを通して地域との交流を広げる取り組みをしている。また、バスを利用して水族館へ行ったり、農業体験施設で収穫体験をするなど、公共の場での交流や地域の人々と積極的に関わられるようにしている。</li> <li>・小学校とは、プール体験、小学校見学などの体験を通して交流を図るようにしている。</li> </ul>		
A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	保51	a ・ ㉞ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全や清潔に配慮し、子どもの発達や保育に応じた環境や用具などを設定し、子どもの生活リズムに応じて丁寧でゆったりとした保育を心がけている。外気に触れたり、戸外遊びも積極的に取り入れている。また、職員に乳幼児突然死症候群に必要な知識が周知され、事故防止や乳幼児突然死症候群チェックを実施している。子どもの心情や欲求に応じて抱っこしたりおんぶをし、語りかけやスキンシップをしながら情緒の安定を図っている。</li> <li>・生活空間を遊び・生活・昼寝に区分し、生活の機能に応じた快適な生活空間が保たれるようにしている。明るく広々とした乳児室は、個々の生活や遊びのリズムに合わせて、ゆっくりと遊べる場ともなっており、工夫された手作りおもちゃや、生活用具が設置されている。</li> </ul>		
A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	保52	a ・ ㉞ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2歳児の子ども発達の特徴を踏まえ、一人ひとりの育ちに合わせ基本的な生活習慣が身につくように配慮し、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重して子どもに関わるようにしている。</li> <li>・子どもの自己主張や自我の育ちを支え、子どもの気持ちを受け止めるように個別の関わりをしている。</li> <li>・人や物への探索行動が十分にできるように安全に配慮しながら環境を整え、自発的な遊びができるように子どもの状況を観ながら関わるようにしている。また、2歳児については、3歳児移行を見越して、幼児の遊びや集会への参加を無理なく経験できるようにしている。</li> </ul>		

A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	保53	a ・ ㉞ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各保育室とも安全で清潔な環境を整え、それぞれ年齢に応じて自由に表現したり、友だちと協同的な活動ができるような遊具や用具を設置している。</li> <li>・それぞれの年齢の発達の特徴を踏まえ、一人ひとりの育ちに合わせて基本的な生活習慣の定着を図り、友だちや他の人々との関わりを深め、ものごとへの関心を高めていくように配慮しながら子どもと関わるようにしている。</li> <li>・保育所保育指針に示されている5領域の内容を、遊びや生活を通して総合的に身につけられるように計画に位置付け、それに基づいて保育が展開されている。また、5歳児は遊びの中で、表現遊びや体育的要素の遊びや楽器などの表現的遊びについて、子どもが自信を持ってチャレンジし、楽しみながら課題に挑戦するようにしている。</li> </ul>		
A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	保54	㉞ ・ b ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気になる子や特別支援を要する子どもについては個別指導計画を立て個別記録を取り、ケース検討会で共有を図り子どもの状況に応じた保育をしている。保護者とは、日常的に話し合う機会を設け、子どもの状況や発達課題等についての情報を共有し認識の相違がないように努めている。</li> <li>・気になる子や特別支援を要する子どもが、他の子どもとの生活を通して共に成長できるように、その子どもの生活や遊びが指導計画の中で位置づけられている。指導計画と個別記録との記録内容がより明確で、整合性のある内容になるような工夫もされている。</li> </ul>		
A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	保55	a ・ ㉞ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・19時までの長時間保育を実施しているので、子どもの発達や年齢、平日や土曜日などに応じた保育計画を作成し、それに基づいた環境を整え、ゆったりとした保育を行うようにしている。子どもの状況について、職員間の引継を文書で明確に行い、子ども一人ひとりの気持ちに沿うような保育に心がけている。子どもの思いに沿ってゆったりと寛いだり、異年齢でも遊べるような環境を工夫し、子どもが安心して心地よく過ごせるようにしている。長時間保育利用者にも、災害時における避難訓練を保護者と共に実施している。</li> <li>・保護者への連絡は、口頭や文書、または、状況に応じて直接担任が伝えるようにしている。また、保護者以外の迎えや担任と直接話す機会の少ない保護者との連絡事項の伝達方法や連携方法に配慮をしている。</li> </ul>		
A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	保56	a ・ ㉞ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自尊感情の育みや協同的な活動を通して社会性を養う、知る楽しみや好奇心の助長など学びに向かう基礎作りを、遊びを通して行っている。また、生活や遊びを通して文字や数の認識を促す活動をしている。</li> <li>・小学校のプール体験、学校見学などの機会を設けて、小学校への期待が持てるような活動を取り入れている。</li> <li>・入所している子どもの就学に際し、「保育所児童保育要録」に基づき個々の資料を作成して小学校に持参し、必要に応じて子どもの生活や発達の連続性を踏まえた情報交換を行うように努力している。</li> <li>・保護者には、保育参観で子どもの様子を観る機会があり、その中で施設長は小学校以降の生活を見通せるような話もしている。</li> </ul>		
A-1-(3) 健康管理		
A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	保57	a ・ ㉞ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康マニュアルがあり、これに基づいて子ども一人ひとりの健康状態に応じて適切に対処している。また、子どもの健康管理は、入園時に健康記録や生活状況に基づいて個別的に把握している。既往症やアレルギー、予防接種の状況等については保護者からの情報を得て管理し、対応の配慮を行っている。日々の怪我や体調不良、感染症等については病気対策マニュアルに基づいて記録をしている。</li> <li>・保育時間内での体調の変化については施設長、副園長が把握し対応している。状態に応じて柔軟的な保育を実施し、保育園での健康状態を保護者に伝え、降園後の対応にも配慮している。また、職員にはマニュアルを配布し、必要な知識等を習得できるように会議で周知を図っている。</li> </ul>		

A-1-(3)-② 健康診断・歯科検診の結果を保育に反映している。	保58	a ・ ㉔ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断、歯科検診を定期的を受診し、その結果を記載して保護者に伝えている。受診の結果は個人情報であることに留意して、守秘義務が遵守されるようにしている。また、嘱託医とカンファレンスをし、子どもの健康管理についての情報交換を行っている。</li> <li>・健康診断や歯科検診の結果を職員で共有し、日々の歯磨きや手洗い、うがいなど保育の場面に反映させている。</li> </ul>		
A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	保59	a ・ ㉔ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギー疾患を持つ子については入園時にアレルギー調査を実施し、医師の診断書や指示書の提出を得て、施設長、副園長、保護者と綿密な打ち合わせを行い、除去食や代替え食の対応をしている。また、日々の保育では、施設長や副園長、調理員、担当保育士が綿密な連携を図り、食材や食器等のチェックなどをして対応をしている。</li> <li>・会議等で全職員にアレルギー疾患についての必要な知識や情報を周知させ、実際の保育については徹底した対応がされるようにしている。保育士はエビペン講習やアレルギー研修を受講している。</li> </ul>		
A-1- (4) 食育、食の安全		
A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	保60	a ・ ㉔ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康な生活を送るために、食物に関心を持たせながら豊かで正しい食体験を積み重ねていくことを目標に、保育内容の一環として食育指導計画を作成し、子どもが食事を楽しむことができる工夫や取り組みをしている。</li> <li>・ミニトマトやピーマンなど季節の野菜を子どもと一緒に栽培し、給食に取り入れたりしている。また、発育期にある子どもの食事の重要性や食材の活かし方などを掲載した毎月の献立表を配布したり、食事内容のサンプルを掲示したり、給食参観の機会を設け、栄養や味付け、量、食べ方など「食」の大切さを保護者に伝える取り組みをしている。</li> <li>・食事環境を清潔に整え、会話を楽しんで食事したり、年齢に応じて片付などに参加できるように配慮している。体調や個人差、食欲、年齢に応じて食事も配慮している。</li> </ul>		
A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	保61	a ・ ㉔ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自園で作られた食事を提供しており、管理栄養士により年齢に配慮して、行事や季節感のある献立を作成し、子どもがおいしく安心して食べることができる食事を提供している。</li> <li>・職員も子どもと一緒に食事をしながら、嗜好や食べる量、残食などを把握している。</li> <li>・検食簿に食事状況を記載し、食事内容や調理の工夫に反映させている。必要に応じて栄養士や調理員による食育指導を受けている。また、衛生管理体制を確立し、マニュアルに基づき衛生管理が適切に実施され、食中毒等の発生時に対応できるような体制が整備されている。</li> </ul>		

## A-2 子育て支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 家庭と綿密な連携		
A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	保62	a ・ ㉔ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入園式や父母の会総会、行事、懇談会などの機会に保育課程や日々の保育の意図について説明をし、共通理解を深めるようにしている。また、登降園時を利用した保護者とのコミュニケーションなどを通して意向を把握したり、毎日の様子をボードに記載して知らせたり、毎月の園だよりや個々のたよりなどで、保護者と共に子どもの成長の喜びを共有できるように支援をしている。</li> <li>・家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。</li> </ul>		

A-2-(2) 保護者の支援		
A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	保63	a ・ ⑥ ・ c
<コメント> ・ 個人懇談会、保育参観、運動会や生活発表会等行事参加の機会を定期的に設け、保護者と話し合う機会を作り共通理解を深めるようにしている。 ・ 子育てに不安を感じている保護者には、積極的に声をかけ、話を聞いたり相談に応じたり、必要に応じて家庭児童相談室や保健師、児童相談所などと連携を取るようになっている。 ・ 意見箱も常設しており、保育参観や行事の後に、保護者向けのアンケート調査を実施し、保護者と共通理解を得るための機会としている。		
A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	保64	a ・ ⑥ ・ c
<コメント> ・ 職員に対して、虐待に関する理解を促すための取り組みや対応等についての虐待マニュアルを整備し、日常の送迎や保護者とコミュニケーションを通して早期発見に努め、状況を詳細に記載するようにしている。 ・ マニュアルに基づく研修を行い、虐待の疑いが生じた場合は、直ちに副園長や施設長に伝え、情報や状態を確認した上で、行政や児童相談センター、警察などの関係諸機関に照会や通告をする体制を整えている。		

### A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果
A-3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)		
A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	保65	a ・ ⑥ ・ c
<コメント> ・ 保育に関わる計画や記録と保育実践を、保育の資質向上や保育サービスについて定期的に自己評価を行い、改善に向けて検討する機会を設け職員間で共有化を図っている。 ・ 自己評価の内容の妥当性を検証しつつ、結果を分析し課題を示し、改善計画や改善策を園の保育に反映していく努力をしている。		